

# 木彫による造形研究 2018

## クロッキー&ドローイング

岩井 義尚 *IWAI Yoshinao*

(美術学部)

作品の形の素は、「自然のモノをデッサンしていると、その源は球体、それも機械的な球体ではなく、心地良い球体の単体又は複合体である」と考える。私の創作は、この考えを基に「視覚に訴えかけるのに重要である水平要素・垂直要素」そのものが創り出す空間」を使い構成している。



**第41回記念中部二元展 2019.3.12 ~ 3.17**  
愛知県美術館 8F ギャラリー (G1・G2・H・I室)(名古屋市)

テーマ；「動き」「流れ」「生」「種」

立体作品における制作は、テーマからイメージし、形の根源を動物（人も含む）・植物・自然現象から創作要素を探り、構成を考慮し、素材（木）を彫ることにより形（Form）を創り出す手法で具現化した単体又は集合体で表現している。

平面作品は、ペンで描く多くのフリーハンドの線の重ねにより、人物の構成し、立体作品に影響するエスキースの要素を含むドローイングと人体クロッキー（各種描画素材）により、テーマを表現する研究をしている。



**Form 1901**

樺（ケヤキ）集合体

H215×W170×D165

ひとつひとつの部分（流線体）を、今回は立ち上がりで連結し、群れ・増殖した形で「種」を「流れ」と共に表現した。

過去の作品にも使用した部材を含め、素材は樺で制作した。第41回記念中部二元展へ出品。





上の2枚のドローイングを素に組み合わせを試みて制作した作品である。

第41回記念中部二元展出品

### Form 1902

樟 (クス)、桂 (カツラ)、  
檜 (ヒノキ)、アメリカン  
ブラックウォールナット  
集合体

H75×W250×D220

「生」「種」をテーマに、母体をイメージし、クスの変木の形を極力利用して本体に、内側を彫り出し内面に、モコモコした球状の連結された形、或いは単体の球状の形の集合体で表現した。





**Form 1806**

朴 (ホオ)  
H45×W30×D20



球体を繋げて、朴の塊より彫り出し、動きのある形態で「生」を表現した。「木彫を楽しむ part XIX」作品展 (北名古屋市文化勤労会館 1F 展示室) へ出品。



**Form 1805**

樗 (ケヤキ)  
H37×W61×D20

横たわった女性をモチーフにし単純化した形を考え、Form 1804 と同様に樗の角材 (一木作り) から掘り出した作品で「生」と動き」を表現した。中部二元会研究展 (名古屋市民ギャラリー一栄) へ出品。



**Form 1804**  
樗 (ケヤキ)  
H37×W30×D20

立ち上がろうとする (伸びあがる) 女性をモチーフにして樗の角材から掘り出して「動き」「生」を表現した。「木彫を楽しむ part XIX」作品展へ出品。





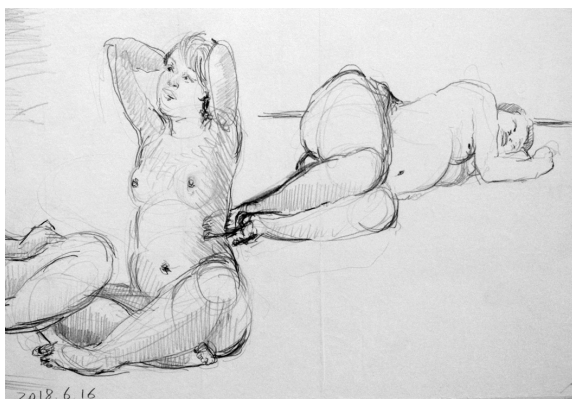


### クロッキー

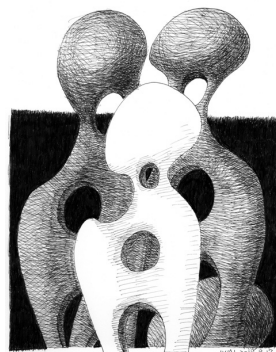
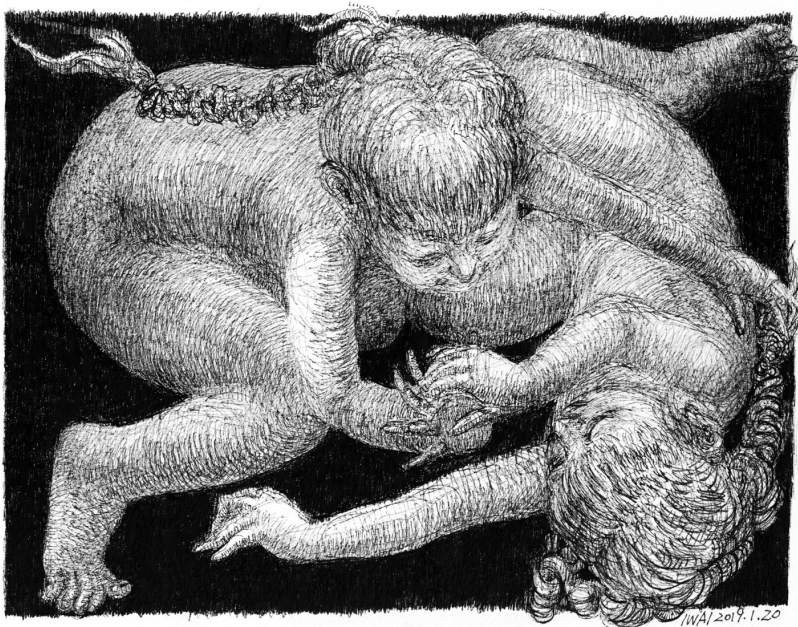
現在所属している「中部二元会の研究会。」と「Art of 20 歩」のクロッキー会での成果で、和紙に鉛筆にて描いて、中部二元会の研究展（名古屋市民ギャラリー栄）へ出品

### ドローイング

次のページのドローイングは、「ちゅうしんアートギャラリー」（中日信用金庫・名古屋支店）と「Art of 20 歩」（北名古屋文化勤労会館）での作品展への出品をしている。







### ドローイング

立体やレリーフ作品のためのアイデアを紙(水彩紙)にペンで描き、一方は浮遊した子供の形を借りて「流れ」「動き」を意識し、躍動感を表現している。

他方は、抽象化した形を重ね合わせ、空間を利用し「生」を特に表現した。

「ちゅうしんアートギャラリー」第26回と第27回に出品。

